

# ユニバーサルデザインの実現に向けて

## Making Universal Design a Reality

21世紀に入り、“IT(情報技術)革命”の進展によって、経済・産業構造が大きく変わろうとしています。日常生活においても、携帯電話やパソコンの普及によって、ITを利用する機会が増加しています。一方で、わが国をはじめ多くの先進国は、急速に高齢社会へと移行しております。このような社会では、電子機器や通信機器を使えない高齢者や所得や教育などの違いにより、情報へアクセスする機会に格差ができるなど、いわゆる“デジタルデバイド”といった社会的課題も生まれています。日用品においても身体特性の違いや加齢のための身体変化により、今までと同じように使えないという問題も顕在化してきました。こうしたIT化、高齢社会の進行に伴い、政府・行政機関、企業、団体などがユニバーサルデザインに取り組み、人に優しく、暮らしやすい街づくりやモノづくりを目指しています。それらが法令化やガイドラインづくりという形で、ビジネスの現場にも影響を与えています。ユニバーサルデザインは特別な概念ではなく、一人ひとりの人間を尊重するという理念がベースにあり、モノづくりやサービスの視点から差別や不利益をできるだけ正していこうという考えがその基本です。

東芝は、ユニバーサルデザインが提唱される以前から高齢者や障害者の基礎研究を行い、家電機器、IT機器、公共機器など様々な分野の製品デザインを開発してきました。また2002年には、わが国初のユニバーサルデザインの国際会議“国際ユニバーサルデザイン会議2002”が開催され、当社は協賛企業として参加し、これまでの取組み、具体的な製品開発事例や論文を紹介して高い評価を受けました。最近になり、ユニバーサルデザインということばが一般化してきましたが、十分浸透しているとは言いがたく、まずは理解と関心を高め、多様なユーザーの視点から、使いやすいものを開発し続ける努力が必要だと考えています。

今回の特集では、当社の考えるユニバーサルデザインを、様々な分野での取組みや具体的な商品事例などを通して紹介いたします。東芝グループとして、ユニバーサルデザインの実現に向けて開発する製品やサービスが、お客さまの満足につながることはもとより、社会全体へ貢献できることを願っております。



片上 義則  
KATAGAMI Yoshinori